

JR連合「あるべき労働組合像」Part 2 規律を守り、生産性向上に努めよ！

JR連合「あるべき労働組合像・労使関係像」の「労働組合が果たすべき役割」には以下のことが書かれています。

「労使は生産性向上に努め、生み出された企業の利益は、適正に働く者に分配されなければならない」。しかし、会社は利益追求のためにコストを下げ、生産性向上の施策を実施します。決して、労働者に分配するために生産性を上げようなどとは微塵たりとも思っていません。かつて、利益を労働者に還元した企業はあったのでしょうか。まさに、空論、理想、夢の世界なのです。

また、「（労働組合は）適正な生産性向上や競争力強化に資する存在になるべき」とし、そのためには「秩序や規律が守られる職場風土を確立するために活動する」と主張しています。社内誌『JR東海』などで、会社幹部が言っていることとどこかに違いはあるのでしょうか？労働組合幹部が組合員に対して「身を粉にして働け」「会社の命令は絶対だ」と言ったとしたら、どう思いますか？

一方、「適正な賃金や労働条件と、競争力の確保の両立を指向すべき」と、矛盾したことが書かれています。競争力を上げるためには、賃金や労働条件を切り下げなければなりません。両者が両立できるとでも思っているのでしょうか。こんな寝言が通用できれば、労働組合は必要ありません。

「あるべき労働組合像」には、組合員の利益第一と主張する記載は一切ありません。すべて会社の利益が出発点です。こういう組織は「労働組合」を名乗るべきではありません。

〈次号に続く〉

**組合員の利益より、
会社の利益の方が優先！**